

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立喜連東小学校
学校長名	杉本 宏美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
  - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
  - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・喜連東小学校では、第6学年 51名

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語A・B、算数A・Bどれも大阪市の平均正答率を大きく下回る結果となった。国語・算数ともに、「知識に関すること」「活用に関すること」両方に課題がある。

国語A・B、算数A・Bすべてにおいて、平均無回答率が全国や大阪市平均の約4倍となっている。問題を読んでも問題そのものの意味の理解が不十分であったり、最後まで粘り強く考えられず途中であきらめてしまう児童が多いと考えられる。基礎・基本の学力がまだ十分に身につけていないことに加えて、自己肯定感や自尊感情の低さも影響していると考えられる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### 〔国語〕

「漢字を読む」やいくつかの解答例のなかから選択する問題については、比較的正答率が高く、無解答率が低くなっている。しかし、自分の考えを文章にまとめたり、文章の要点をまとめたりする問題については、正答率が下がるだけでなく、無解答率も大きく上がってしまう。言語力や論理的思考の育成が急務である。

### 〔算数〕

無解答率は高いが、標準化得点については少し上昇している。これは、昨年度より算数科を研究教科にして、対話的な活動を重視した授業研究を続けてきた結果ではないかと思われる。少しずつではあるが、問題解決型学習が子どもたちの中に浸透してきているものとする。自分の考えをまとめて記述したり、それを発表して友だちの考えと比べたりする活動をこれからもじゅうじつさせていく必要がある。

質問紙調査より

- ・読書が好きであると肯定的に答える児童の割合は、年々増加している。
- ・携帯電話やスマートフォンの使用時間、テレビゲームの実施時間などが、全国に比べて非常に長く、それが家庭学習の時間の短さにつながっていると考えられる。
- ・自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識を持っている児童が多い。
- ・自己肯定感・自尊感情・規範意識については、昨年までよりは向上してきている。

## 今後の取組

- ・子どもたちが「学ぶことが楽しい」と思えるような授業改革が必要。
- ・そのためには、場の設定や指導形態の工夫など授業研究を通しての授業改善、指導者の資質向上を図る必要がある。
- ・習熟度別少人数指導などを通して、子どもの考えや意見をより多く聞くことのできる場、子どもが自らの考えや意見を発表しやすい場を増やし、まずは自尊感情の醸成を図り、学力向上につなげていきたい。